

西蒲区農業委員会だより

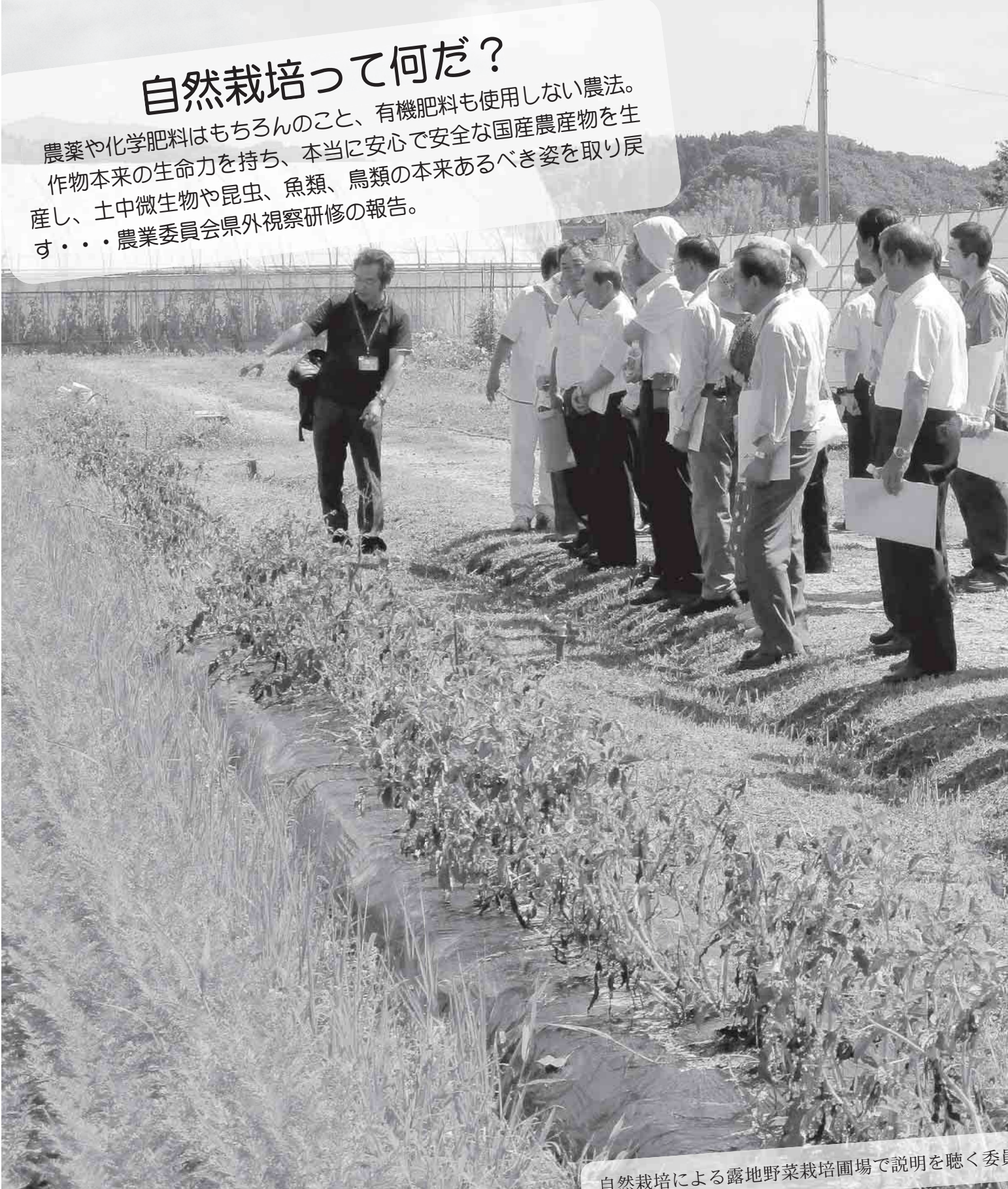
第43号

平成29年10月1日

● 新潟市西蒲区農業委員会 〒953-8666 新潟市西蒲区巻甲2690番地1 TEL.0256-72-8631

自然栽培って何だ？

農薬や化学肥料はもちろんのこと、有機肥料も使用しない農法。作物本来の生命力を持ち、本当に安心して安全な国産農産物を生産し、土中微生物や昆虫、魚類、鳥類の本来あるべき姿を取り戻す・・・農業委員会県外視察研修の報告。



自然栽培による露地野菜栽培圃場で説明を聴く委員

県外視察研修報告

7月6日～7日 石川県

「JAはくい」

石川県羽咋市では、2010年、「奇跡のリンゴ」で知られる青森県のリンゴ農家・木村秋則さんを講師に招き、自然栽培について学んだことをきっかけに、「自然栽培実践塾」を開講、

全国からたくさんの方を塾生を受け入れることとなりました。

この塾をきっかけとして、市内へ移住し自然栽培に取り組み新規就農者も増えていきます。羽



水稻栽培圃場の様子

研修レポート



農地利用最適化推進委員
長谷川 智行
(巻)

7月6日、7日の2日間、石川県へ視察研修に行ってきた

の安全志向の高まりから年内には完売することです。

今年の栽培面積は約25ヘクタールで33人が取り組んでいます。昨年の19人・14ヘクタールからおよそ倍増で、今後も増やしていく計画です。

「JAグリーン松任」 「まいとさん市場」

JAグリーン松任のまいとさん市場は、農産物の直売所と営農資材の販売を同じ場所で行い、地元の農産物を積極的に販売するとともに、家庭菜園の技術的な需要にも対応するため、JA



JAオリジナルのパックごはん(赤飯)

の専門知識を生かして生産資材の販売も行っていました。

JA松任オリジナルのパックごはんなどの加工品も販売されていました。

た。JAはくいにて研修し、JAはくい農業振興課長の粟木さんからお話を聞きました。JAが自然栽培?と疑問を持っていたのですが、話を聞いてなるほど感じました。それは、今どこの地域でも課題になっている「過疎化」「担い手不足」に対応する施策として、はくい市とJAが連携して行っている取り組みでした。のと里山自然栽培部会を立ち

上げ、その部会として塾を開講して全国から塾生を受け入れています。ここでは自然栽培でコマ作り等を学んでもらい、その塾をきっかけにして市内に移住してもらおう施策です。実際に新規就農者も増えているそうです。生産者、JA、行政が一体となって、新規就農、担い手育成に取り組んでいることを、今後私たちももっと深く考えていかなければと感じました。

管内農地の実態を調査 許可のない転用は違法です

農業委員と農地利用最適化推進委員が、地区ごとに管内の農地を巡回し、違反転用や耕作放棄が疑われる農地の実態を調査しました。

数年前から明らかに違反転用となっている農地や耕作が放棄された農地などを確認しました。違反転用がある一方で、違反転用の解消に向けて復旧が進められている農地や遊休農地の耕作再開に向けて整備が進む農地も確認できました。

違反転用については案件により、今後文書でも解消に向けて



お願いする予定ですが、すでに地元委員から口頭で伝えてもらった案件もあります。

また、新たに発見した遊休農地については、所有者に対して今後の「利用意向」を調査します。この意向調査に回答しないなどの場合には、来年度以降の固定資産税の課税が強化されることがあります。

農地は国の食糧を確保するための限られた貴重な資源であり、違反転用と遊休農地は、全国的にも農地をめぐる大きな課題となっています。

違反転用案件の中には、きちんと手続きをすれば解決できる農地もありますし、遊休農地は条件的に耕作の継続が難しい場所があることも現実ですが、荒廃してしまう前に地元委員に一度相談してもらおうなど対策を取っておきたいところです。

違反転用、遊休農地、いずれも所有者の皆さんのご理解をいただき、解消に向けてご協力をお願いいたします。

耕作放棄地解消モデル圃場 2年目の活動をみる

農業委員会が自らの手で耕作放棄地をよみがえらせる活動も、新たな圃場での2年目を迎え、今年度もダイコンの収穫をめざして春から活動してきました。

昨年ダイコンを収穫した圃場も、飛砂などにより再び傾斜が付き、春には一部重機による整地作業を行い、ダイコンの品質を悪化させる「センチチュウ」対策と土壌消毒のため、すき込むためのマリーゴールドを播種しました。

その後、マリーゴールドは芽を出しましたが、雑草も生えてきたため全員で除草作業も行いました。

8月には成長したマリーゴールドを予定どおりすき込み、ダイコンを播種しました。12月には全委員で収穫の予定です。

農業委員会では、農業の基幹である「農地」を守り活かすため、関係機関の協力も得ながら、耕作放棄地の解消に向けた啓発活動を実施しています。

また、一定の条件を満たした「耕作放棄地の解消」には、市の補助事業として10アール当たり5万円を交付する事業も行っています。

全委員によるマリーゴールド播種地の除草作業



農政振興部会員によるマリーゴールドの播種作業



5月重機による整地作業



農業委員会の主な動き(6月~8月)

◎ 委員とは、農業委員及び農地利用最適化推進委員です。

- 6月 7日 耕作放棄地解消プロジェクト圃場播種作業 (委員16名)
- 6月 8日 市内6 農業委員会連絡協議会(会長、職務代理)
- 6月13日 味噌作り教室(女性委員)
- 6月23日 新潟県農業会議第122回通常総会及び市町村農業委員会会長会議(会長)
- 6月26日 女性セミナー開講式・第1回研修会(女性委員)
- 6月27日 6月調査委員会(委員7名)
- 6月30日 6月定例総会(委員26名)
- 7月6日~7日 農業委員会県外視察研修(委員30名)
- 7月 9日 耕作放棄地解消プロジェクト圃場除草作業 (委員18名)
- 7月14日 岩室・西川地区農地パトロール(委員12名)
- 7月15日 巻・潟東・中之口地区農地パトロール (委員24名)
- 7月21日 農地・農政振興部会(委員40名)
- 7月21日 区長と農業委員会懇談会(委員42名)
- 7月25日 西蒲原土地改良区西地区委員会(会長)
- 7月26日 7月調査委員会(委員6名)
- 7月31日 7月定例総会(委員24名)
- 8月 1日 女性セミナー第2回研修会(女性委員)
- 8月 2日 巻地区荒廃農地調査(委員12名)
- 8月 3日 農業委員会だより編集会議(委員3名)
- 8月10日 岩室地区荒廃農地調査(委員8名)
- 8月22日 新潟西部指導農業士会西川サミット(会長)
- 8月24日 市町村農業委員会研修会(委員26名)



- 8月25日 中之口地区荒廃農地調査(委員7名)
- 8月28日 8月調査委員会(委員6名)
- 8月29日 市議会農政議員連盟意見交換会(会長)
- 8月31日 8月定例総会(委員24名)

全国農業新聞購読を!



週刊(金曜日発行)
月 700円
(消費税込)

全国農業新聞の購読トライアル実施中です。3か月間、無料でご自宅に郵送いたします。この機会にぜひご覧ください。お申込みは、西蒲区農業委員会事務局(☎0256-72-8631)へ

委員のしくみ



農地利用最適化
推進委員
八木 寿久
(巻)

立秋が過ぎ、残暑が厳しいかと思いきや、雨続きの毎日だが実りの秋が近づいています。推進委員2年目の私だが、最近「生産緑地の大半で2022年に営農義務がなくなる」という記事を目にした。それは1991年3月に生産緑地法が改正されて、生産緑地に指定

された農地では極めて低い税額に抑えられているが、30年間の営農義務が課せられたのである。改正生産緑地法が適用されたのが1992年度からだが、現存する生産緑地の多くは初年度に指定を受けているため、2022年度に営農義務が外れることになるのだ。西蒲区に生産緑地は存在しないが、全国に約1万3千653ヘクタール(2014年3月時点)ある生産緑地のうち、2022年が期限となるのは約8割程度とみられている。まだ少し先のことではあるが、農業委員会の立場として考えなければならぬことのように思う。

更新通知の届いている皆さん

利用権の更新手続きはお済みですか?

平成30年3月31日が期限の農業経営基盤強化促進法による賃貸借権について、6月に更新の案内をしてありますが、更新手続きはお済みですか?

更新手続きをしないと、期限到来により農地の賃貸借権が消滅します。手続きしてから効力が発生するまで最大で3か月近くを要しますので、賃貸借権の空白期間を出さないためには、平成30年1月25日までに手続きをお願いします。

農地に関する各種申請の日程(10月~1月)

● 農地法関係

月	申請締切日	総会
10月	11日(水)	31日(火)
11月	9日(木)	30日(木)
12月	8日(金)	27日(水)
1月	11日(木)	31日(水)

● 農業経営基盤強化促進法関係

月	申出締切日	公告日
10月	25日(水)	12月14日(木)
11月	24日(金)	1月17日(水)
12月	22日(金)	2月15日(木)
1月	25日(木)	3月14日(水)